

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4472600750
法人名	社会福祉法人 豊後大野市社会福祉協議会
事業所名	グループホームふれんど
訪問調査日	平成20年11月28日
評価確定日	平成21年 1月 8日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4472600750
法人名	社会福祉法人 豊後大野市社会福祉協議会
事業所名	グループホームふれんど
所在地	豊後大野市緒方町馬背畑1875番地 (電話)0974-22-6677

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年11月28日	評価確定日	平成21年 1月 8 日

【情報提供票より】(平成20年9月30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年3月31日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	10 人	常勤	10人, 非常勤 0人, 常勤換算 6.6人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	25,500 円	
敷 金	有 (円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	330 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 880 円			

(4)利用者の概要(平成20年9月30日現在)

利用者人数	6 名	男性	2 名	女性	4 名	
要介護1	0 名	要介護2	3 名			
要介護3	3 名	要介護4	0 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	87.5 歳	最低	81 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	公立おがた総合病院 加藤病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 自然に恵まれた環境の中、周囲にはあまり住宅がなく、交通の利便性も良くないものの、敷地内にデイサービスと保育園があり、ゲートボール場が隣接しており、地域の人達との交流がとれている。
- 2 前回の外部評価の結果を参考に、グループホームの役割や意義をふまえて利用者本位の業務の大幅な見直しを行い、現在も改革に取り組んでいる。
- 3 職員は異動が少なく、チームワークがとれており、利用者本位のケアの実践に向けて努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の結果を受け、改善点については業務マニュアルから見直し、大幅な業務改革を行い改善へ向けて様々な取り組みを行っている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の評価については、自己評価票を職員会議で1項目ごと話し合い作成している。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者、家族、民生委員児童委員、地区自治委員、市役所職員で2ヶ月毎に開催している。市役所職員からの意見をもとに、隣接するデイサービスで行っていた入浴をグループホームで独自に実施するなどした。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族アンケートの実施や意見箱の設置をしており、結果については全職員で共有し、運営に反映させている。また、今月のクリスマス会の際に家族会の設置について提言する予定である。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域と隣接する保育園の合同運動会への参加、隣接するゲートボール場を利用する方々との交流、地域ボランティアが利用者とお話をしてくれる等しており、自治会からは市報や回覧板が回ってくる。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在の理念と共に、年度目標として「地域とのふれあい」を盛り込んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を分かりやすい場所に掲示するとともに、朝礼などを通じ、全職員で確認している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域と隣接する保育園の合同運動会への参加、隣接するゲートボール場を利用する方々との交流、地域ボランティアが利用者と話をしてくれる等しており、自治会からは市報や回覧板が回ってくる。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を受け、改善点については業務マニュアルから見直し、大幅な業務改革を行い改善へ向けた取り組みを行っている。今回の評価については、自己評価票を職員会議で1項目ごと話し合い作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、民生委員児童委員、地区自治委員、市役所職員で2ヶ月毎に開催している。市役所職員からの意見をもとに、隣接するデイサービスで行っていた入浴をグループホームで独自に実施するなどした。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	食事の保存食、ショートステイの受け入れ、研修の実施について等、相談や確認をその都度行っている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は利用料の支払いのため、毎月ホームを訪問しており、その際に利用者の様子を報告している。また、今年度から広報誌「フレンド通信」を発行し家族へも配布している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートの実施や意見箱の設置をしており、結果については全職員で共有し、運営に反映させている。また、今月のクリスマス会の際に家族会の設置について提言する予定である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者とサービス提供責任者は開設時から変わっており、年に1回の定期的な人事異動もなじみの関係に配慮し、最小限にしており、家族へは広報誌などでお知らせしている。また、今年度から夜間の担当職員の配置も見直し、利用者の状態を把握している馴染みの職員で対応するように変更した。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて内部、外部研修参加を積極的に取り組んでおり、研修結果は復命書をもとに全員に回覧して共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県老人福祉施設協議会の専門委員会、豊後大野市グループホーム連絡協議会に参加しているが、具体的な活動へは至っていない。	○	今後は積極的に会への参加を行っていく予定であり、今月には他のグループホームへの視察研修を計画しているので期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者のほとんどは隣接するデイサービスを利用しており、馴染みの関係作りができています。また、グループホームの雰囲気に馴染んでもらえるように、1週間ほどの体験利用を行うなどしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを全職員で共有し、食事の作り方、戦争体験の事など、利用者から教えてもらう場面作りを多く持てるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や日々の暮らしの中で情報収集し、ケース記録などで全職員で共有しているが、各個人の全体的な把握が分かりづらい面がある。	○	記録の様式を工夫する等して、収集した情報がより確認しやすくなることが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望をふまえ、主任、サービス計画作成者、リーダー研修修了者の2名で介護計画の作成を行っているものの、日々のケアに介護計画が反映できていないことがある。	○	介護計画作成の際の意見の採り入れや内容の共有を全職員で行い、ケアに反映できることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行いながら、大きな変化の際はケア会議を開催し、随時見直しはカンファレンスで見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	空室がある場合は、ショートステイの受け入れや家族の状況に合わせて、通院の支援など行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今年度から訪問診療の委託契約を結び、夜間時も含めて対応が可能になった。また、複数の医療機関と密に連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの方針に基づき、入居時に本人と家族に説明を行っている。また、重度化した際は、状況に添って家族や関係者と話し合いをしながら、本人や家族の意向に添った対応をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	定期的に入権や倫理の研修を行い、職員の意識向上を図り、日々のケアは職員ノートでプライバシーを損ねない対応等についての情報の共有をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自の体調などを考慮して日々対応をしているが、個人の希望やペースの把握が不足している。	○	各自のペースや生活歴、希望をより一層把握した上で、本人や職員で話し合いながら、可能な限り希望に添った支援ができるような工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞いて献立を考えたり、利用者と一緒に盛り付けや食卓の準備、片付けを行いながら、1人の職員と一緒に同じ物を食べている。また、誕生日の際は食事の希望を聞いたり、手作りおやつを作るなどしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	これまでは併設のデイサービスで入浴を行っていたが、今年度からは、ホームの浴室で午前、午後の時間帯に毎日入浴できるよう利用者の希望に添った対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	おしぼり配り、洗濯量み、カレンダーめくり等、各自の力に合わせてできることをしてもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調に合わせて散歩をしたり、ほぼ毎月1回はドライブに出かけ、季節の花見や買物などしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠しておらず、全職員で利用者の自由な暮らしを尊重するように対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携で毎年避難訓練を実施しており、昨年の評価結果をうけ、備蓄も整備した。今年度から地元の消防団との避難訓練を計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1600～1800kcal、水分1.3Lを目安にし、摂取状況を毎日チェックしている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高い天井や広い窓のある開放的でゆとりのある食堂ホールには、ソファがある。また、こたつもありくつろげる場所になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く、ゆとりのある居室は日当たりがよく、使い慣れたタンスや好みの小物等がおいてある。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームふれんど
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大分県豊後大野市
記入者名 (管理者)	衛 藤 けい子
記入日	平成20年9月30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	いつも変わらない対応に努める
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	朝礼などで確認したい。また職員会議のたびに運営理念に基づく業務の実施、及び継続性を確認する。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、入居者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	アンケート調査を基にして、今年度は家族との交流会を持ち、家族からの意見・質問に応える場をセッティングする。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	地区の行事にもっと参加できるように努力したい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	自治会に加入し、地域との交流を密にする。消防・災害等の訓練にも積極的に参加する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>入居者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	認知症の理解を得るため、ふれんど通信を通じて地域の民生委員、自治会長に情報の発信をしている。	○	認知症の理解を得るため、地域の人達に向けた情報発信の場を作りたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	サービス評価の意義や目的を理解し、昨年度からの指摘事項の改善に取り組んでいる。		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	隔月開かれる推進会議で取り上げられた検討事項について、その経過を話し合い、法人として意見をもらう様に行っている。		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市町村担当者とは、運営推進会議以外にも電話で解らないことなどを相談している。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	現在は、対象者がいないが、職員は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について研修会等で学んでいる。		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、入居者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	研修を通じて学ぶ機会があり、他の職員にも復命書による研修報告を行い、虐待が見過ごされることがないように注意を払っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、入居者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	
13	<p>○運営に関する入居者意見の反映</p> <p>入居者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置し、入居者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、入居者本位の運営を心がけている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に入居者の様子を報告したり、健康状態に不安があるときは、家族と密に連絡を取り合っている。年3回の広報誌ふ「れんど通信」の発行を予定している。第1号は発行済み。</p>	<p>○ 今年度中に目標達成したい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>アンケートを取ったり、玄関に意見箱を設置し、家族には何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意している。出された意見は、連絡ノートを活用し職員に徹底している。</p>	<p>○ 家族会は設置に向け準備中であり、12月に行う交流会で提言する。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>○</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>入居者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>○</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、入居者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者や、サービス提供責任者は、変更されておらず職員も本年度より増員し、夜間も変わらぬ顔なじみの職員で対応できるようにした。</p>	<p>○</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	本部と協力して研修計画を立てている。	○ 11月に認知症に関する研修、12月に他のグループホームの視察研修を計画している。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	大分、豊肥、県南ブロック、グループホーム専門委員会の会議に参加し、情報交換を行い、ネットワーク作りに取り組む努力をしている。	○ 豊肥地区はネットワークや同業者と交流を持つ機会が少ないので、ネットワーク作りに積極的に協力、参加したいと考えている。又、平成20年度中に他のグループホームの視察見学を予定している。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	管理職まで意見が伝わるように配慮している。	○ 全職員が意見を言いやすい雰囲気作りをする。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		○ 本年度の目標を定め、職員で今後も継続して取り組む。又、収支においても職員が把握できる様に、情報提供を続けていく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	サービスの利用について相談があった時は、本人の思いに向き合い、本人に受け入れられるような関係作りに努めている。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	家族が求めているものを理解し、これまでの家族の苦勞や、サービスの利用状況等をゆっくり聞き、ふれんどとしてはどんな対応が出来るか事前に話し合いをしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域のケアマネージャーと連携して、入所の希望があれば、入所待機者として登録して対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の入居者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員や他の入居者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら体験入所などの機会を作り、対応できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から入居者に教えてもらうという場面が多く持てるように、工夫や声かけに配慮している。「自分は役立っている」という気持ちが、精神安定となり、自信もついているように感じる。	○	日常生活で共にできる作業は一緒に行うようにしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日々の様子や状態などを常に家族に伝えることによって、職員と家族と一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	12月には家族との交流会を持つ計画をしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族や本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごす事を勧めたり、行事に家族を誘ったりしながらより良い関係の継続に努めている。	○	常に家族が来所の際には相談しやすい雰囲気作りに努めていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容院に、定期的に家族に連れて行ってもらう入居者がいる。兄弟やお友達が尋ねてきた折には、又、近いうちに尋ねてくれるようお願いしている。		
31	○入居者同士の関係の支援 入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を聞いたり相談に乗ったり皆で楽しく過ごす時間や、気の合う同士で過ごせる場面作りをするなど、入居者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。	○	独りにならないように職員が間に入ったり、聞き役になり、交わる機会を作っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする入居者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする入居者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の情報収集やアセスメントを充分に行い、又、日々の暮らしの中でも、情報収集に努め、職員全体で把握できるように記録している。	○	記録の徹底。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルを作成し、対応できるよう、折に触れ、本人や家族、関係者からどんな生活をしてきたか聞き取り、記録し、職員全員で把握できるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作から感じ取り本人の全体像を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる入居者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞きながら、個別援助計画を作成し、職員間でも話し合うようにしている。	○	日々の生活記録を徹底し、情報共有できるように努める。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間を明示し、3～6ヶ月毎に見直すように努めている。個々の変化に応じ、随時カンファレンスで話し合い、見直しを行っている。	○	定期的な見直しが必要。日々気付きの記録をとる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分、排泄等身体的状況及び、日々の暮らしの様子などをケース記録に記入している。	○	個別ファイル記入の徹底。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院等の支援を柔軟に行っている。空室がある場合は、ショートステイの利用が出来るように対応している。	○	今後も他の居宅支援事業所にも広報し、より多くの人が利用できれば、と考えている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	隔月の運営推進会議では、自治会長さん、民生委員さんに協力いただいている。年1回の避難訓練実施の時は、消防署のお世話になっている。	○	入居者が地域で安心して暮らせるよう、ボランティアがふれんどに遊びに来たり、入居者がゲートボールに参加させてもらうような機会を持てるように民生委員さんに働きかけている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ホームページの更新、パンフレットを作成し、他事業所情報提供を行っている。又、月1回主任者会議にも参加している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは、利用者の状況に応じて、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と協力し通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、入居者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携病院である公立おがた病院に脳外科があり、必要に応じ診察、助言を受けている。 又、今年は医師による講義研修もあり、職員が参加する。		
45	○看護職との協働 入居者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接するデイサービスセンターに看護職員が常勤しており、日頃の健康管理や状態変化に応じた支援を受けている。提携病院の看護師との連携も密に取れる体制ができています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 入居者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを極力防ぐ為、医師と話す機会を持ち、頻繁に職員が見舞うようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対策はケアマネージャーと相談したり、家族と話し合っている。重度化した場合や終末期の対応は、現在対象者がなくしていないが、家族や本人の意向に添った対応ができるよう取り組んでいる。	○	ターミナルケアの勉強。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の入居者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在対象者なし。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	やむ終えず退所することになる場合は、本人、家族の納得ができる様に、意見や話を聞くようにしている。又、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供しきめ細かい連携を心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修により職員の意識向上を図ると共に、入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	
51	○入居者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者に合わせて声を掛け、又表情を読み取って些細なことでも本人が決める場面を作っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながらその日、その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個別性のある支援を行っている。日常的にはふれんどでゆっくり過ごしながら、時には併設のデイサービスや保育園児と交流したりしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	マニュアル作成し、職員が対応できるようにしている。本人や家族の意向により、本人の馴染みの美容院で希望に合わせたカットや毛染めをしてもらえるよう連携を取っている。	○ マニュアルの徹底。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の盛り付け、片付けを入居者と共に行い、職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るように雰囲気作りも大切にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	以前は出していたが、現在は家族の意向によりお酒は出していない。時々食べたいおやつを聞き、いっしょに作っていっしょに食べている。	○ 今後、希望や必要性が出た場合はケース・バイ・ケースで対応したいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や排泄のパターンを把握し、トイレ誘導をすることで、トイレでの排泄を促している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	マニュアル作成し、安全に入浴を楽しめるよう支援している。	○	マニュアルの徹底。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	マニュアル作成し、職員が安眠・休息の理解ができるようにした。ひとりひとりの体調や表情を把握し希望を考慮してゆとりと休息が取れるように努めている。	○	マニュアルの徹底。
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝のことばを伝えるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布からお金を出すことで社会性の維持に繋げており、小額を手元に持ってもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	マニュアル作成し、外出に対する目的、意義を職員が知り対応できるようにした。 天気、本人の気分や希望に応じて季節を肌で感じてもらい心身の活性に繋がる様散歩、ドライブなどに出かけている。	○	マニュアルの徹底。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の入居者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と連携をとりながら、本人の希望に添うように支援している。	○	マニュアルの徹底。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族や大切な人に本人自らが電話が出来るように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来やすい雰囲気作りを心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、法人として、全役職員に対して、法令遵守を徹底させる規程を整備し周知している。また、全ての職員に対する研修等を通じ、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	○	マニュアルの徹底。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、法人として、全ての職員に対し、利用者の自由な暮らしを尊重するとともに、利用者本位のサービス提供に心がけるケアの実践に取り組んでいる。	○	マニュアルの徹底。
67	○入居者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して入居者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間巡回や、安全に関するマニュアルを作成し、職員が確認できるようにした。日中はフロアにいる職員が見守っている。夜間は数時間毎に入居者の様子を確認すると共に、起きたときにすぐに対応できるよう居場所を工夫している。	○	マニュアルの徹底。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況に照らしながら、厳重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、入居者が使うときに注意が必要なものに分けて管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐ為の工夫に取り組んでいる。		ヒヤリハットを勉強する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 入居者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応について、マニュアルを整備し周知徹底をしている。	○	マニュアルの徹底。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年1回入居者と共に避難訓練を行っている。	○	備蓄品のリストを作り、整備した。地元消防団との避難訓練を計画している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	自由な外出によりリスクは高くなるが、表情は明るくなっているので、抑圧感のない支援につなげている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックをしている。少しでも食欲や顔色、様子等の変化が見られたときは、様子を観察し記録をつけている。状況により医療受診に繋げている。健康管理マニュアルを作成し、職員誰もが対応できるようにした。	○	健康管理マニュアルの徹底。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋をケースごとに整理し、職員が内容を把握できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	健康管理マニュアルを作成し、職員で注意している。食材の工夫や運動を働きかけることで自然な排便が出来るよう取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアに関するマニュアルを作成し、職員がケアの必要性について、理解できるようにした。食後の歯磨きの声かけを行い、力に応じて職員が見守ったり介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。	○	マニュアルの徹底。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。	○	マニュアルの徹底。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こりうる感染症についてマニュアルを作成し、全職員で学習し予防対策に努めている。	○	マニュアルの徹底。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾は漂白し清潔を心がけている。食材の残りは、鮮度や状態を確認し、冷凍したり処分したりしている。毎食利用者と共に検食をし、2週間分の保存食を冷凍保存している。	○	マニュアルの徹底。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 入居者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気になるように、玄関の近くにベンチやプランターを置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、入居者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご飯の炊ける匂い、なじみの音楽、鍋料理や桜餅、季節の花など、五感や季節感を意欲的に取り入れる工夫をしている。折に触れ写真を撮って居室に飾るようにしている。	○	写真、日常使っている家具、道具等持ってくるように声掛けをしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った入居者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファ、畳にコタツを置いて居心地の良い空間を作っている。 独りでほっとできる場づくりにも努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	アルバムや使い慣れた日用品が居室に持ち込まれ、入居者の居心地のよさに配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、入居者の状況に応じてこまめに行っている	フロアは一定の時間帯に換気を行っており、冷暖房も入居者の状況に応じ調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体状況に合わせて居室、浴室、トイレ、廊下などに手すりを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者に合わせて、トイレや居室場所の表示を大きくしたりしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやペランダを入居者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり、畑のスペースを確保し、入居者が日常的に楽しみながら活動できるような環境を作っている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・緒方地域の自然に囲まれた豊後大野市社協が運営するグループホームで、僻地保育園・デイサービス・グラウンドが同じ敷地内にあり、いつも子どもや高齢者の笑い声が聞こえ、地域住民の憩いの場となっている。
- ・ホームページを更新したり「ふれんど通信」新聞を作成し、より多くの方にグループホームをアピールできるようにしている。
- ・今年度マニュアルを作成し、職員全員が同じ対応、同じ姿勢で利用者に対し、ケアできるように、又、安全確保できるようにしている。